



学校教育目標：心やさしく 進んで学び たくましく生きる子どもの育成

ありがとうございました。

学校は、大切なお子様をお預かりし、全ての職員が一丸となって、その健やかな成長のために力を注ぎます。しかし、当然のことながら子ども達は学校だけで育つのではなく、家庭や地域の中で育ちます。「地域の子どもは地域で育てる」という言葉がありますが、常に子ども達は地域の方々のお世話になり、学校もまた、地域の方々を支えられています。お忙しい中、快く、そして、進んで協力して下さったり、指導して下さったり。愛情のこもった見守る温かい心や大切な時間を頂いています。ありがとうございます。

壁画へのご協力 ありがとうございました。

前号で、6年生の卒業制作「壁画」が完成したことをお知らせしました。「壁画」を書いた場所は、神浦小学校の道路側にあるのですが、その場所はコンクリートブロックの壁です。当然、ブロックのデコボコがあり、平ではありません。絵や文字を描く場所は下地を作る必要があるのですが、子どもには難しく、学校管理員さんに作業をお願いしていました。ある日、管理員さんのお知り合いの方が通りかかれ、「自分が下地作りをしてあげますよ」と声をかけてくださり、ボランティアで作業をしてくださいました。その方は十川地区の辻 和喜様です。お仕事と天気の合間を縫い、作業をしてくださいました。その胸にあられるのは、子ども達への愛情です。この、人としての優しさ、温かさは子ども達の心に広がり、受け継がれていくであろうと思います。本当にありがとうございました。



図書ボランティア 「読み聞かせ」



今年度も、野宮様、吉田様、山田様、3名の方に図書ボランティアとして『読み聞かせ』をしていただきました。

学校生活の中で心温まり、楽しく、幸せな時間が過ぎるひと時でした。

読んでいただいた声、眼差し、そして言葉。

お話の一つ一つが子ども達の心を耕し、読書の芽はたくさんの水や養分を吸収し、温かな光を浴びて、一步ずつ、かつ着実に大きく育っています。

今日はお礼に、子ども達から感謝状を贈らせていただきました。

今年度も一年間ありがとうございました。



美しく、豊かで、そして厳しい

3月11日。4年前、東日本大震災が起きました。今も行方不明の方々、そして故郷を離れ避難生活を強いられたままの方も大勢いらっしゃいます。学校でも、犠牲になられた皆様のご冥福を祈り、黙祷をしました。多くの犠牲者を出した地震による津波。この宇久島を取り囲む海と同じ海が、厳しく激しい牙をむきました。碧く広く、深い海。眺めて良し、泳いで良し、釣りして良し。生命の源である母なる海。悠久の昔から多くの恵みをもたらしてきました。散歩やジョギング中、潮の香りをかぎながら眺めていると心が晴れ晴れとします。その海が突然もたらした大災害。人々に与えた試練。自然の厳しさを改めて感じます。

卒業の季節。様々な学校から子ども達が巣立っていきます。これから先、海のように広い社会に出て、様々な場所で様々な人や出来事に出会い、豊かな人生を歩むでしょう。でも、社会は自分に恵みを与えてくれますが、非常に厳しいものでもあります。時には海のように厳しい牙を向いてくることもあるかもしれません。

負けないでほしい。どんな時でも、前を向いて一步を踏み出してほしいと思います。その一步が小さくても、時間がかかっても、踏み出せば必ず前に進むことが出来るからです。そんな子ども達を育てていきます。